

7. 旧排水工事手びき抜粋図面

(1) 建物基礎から汚水ますまでの配管

建物基礎から汚水ますまでの配管は、次の図により決定する。

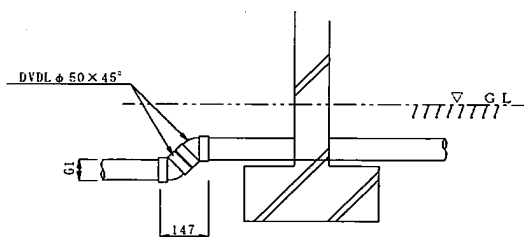
ただし配管採用優先順位は

①45° L + 45° L → ②L L + L L → ③90° L + L L → ④90° L + 90° L

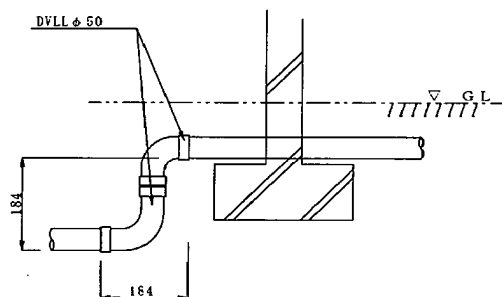
とする。

基礎貫通配管 (φ 50mm)

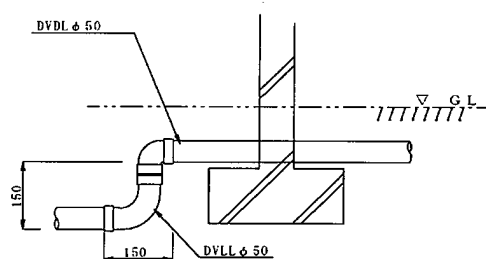
①



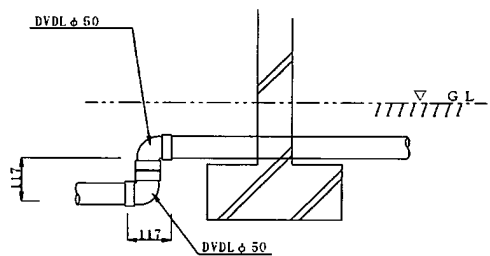
②



③

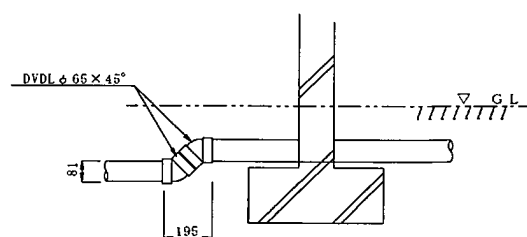


④

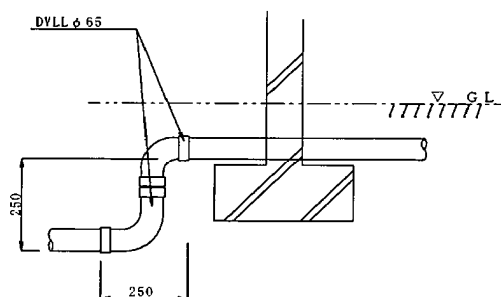


基礎貫通配管 (φ 65mm)

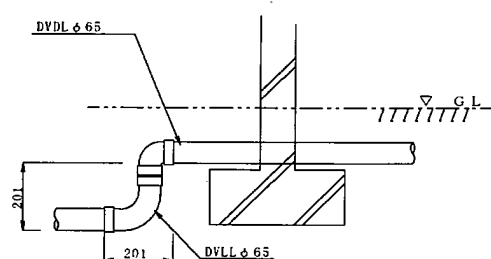
①



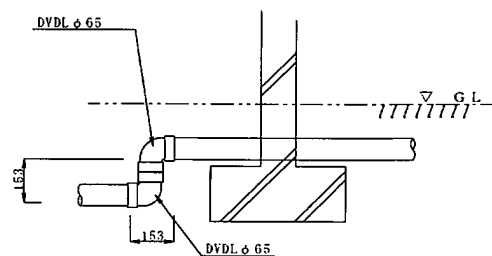
②



③



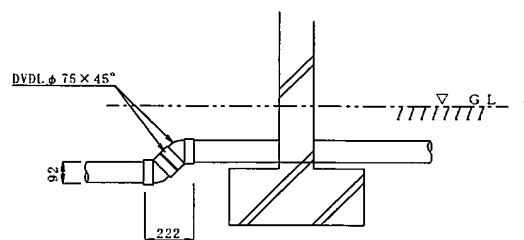
④



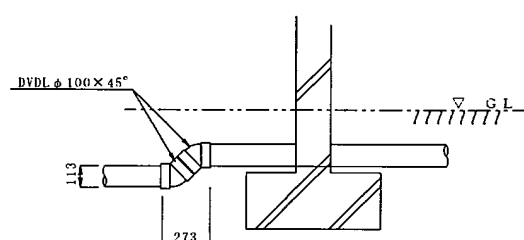
基礎貫通配管 (φ 75mm)

基礎貫通配管 (φ 100mm)

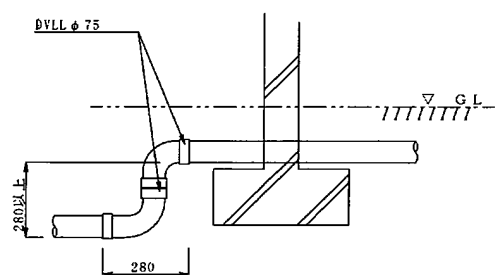
①



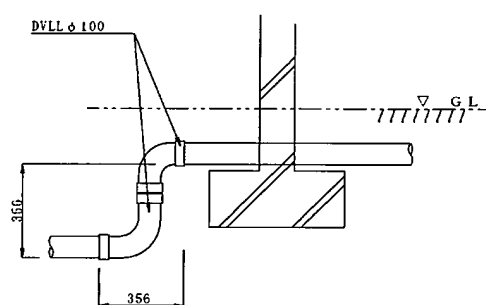
①



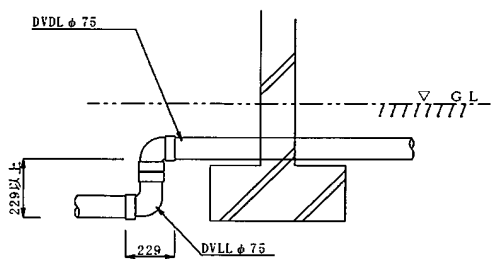
②



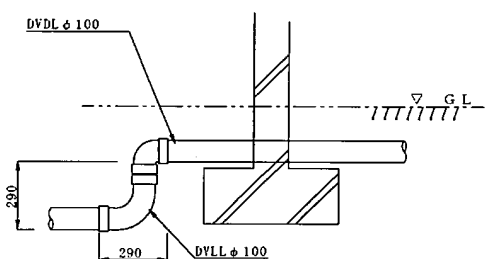
②



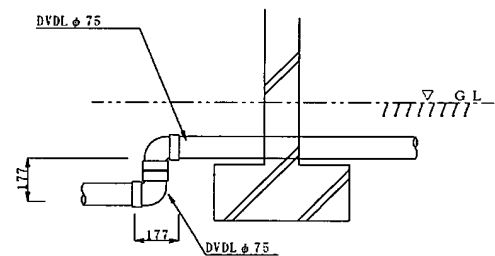
③



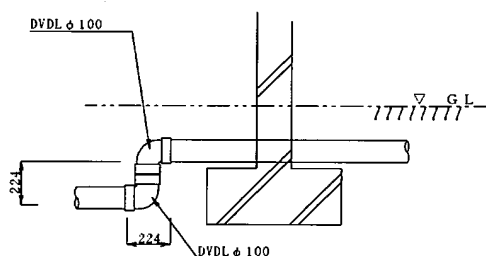
③



④

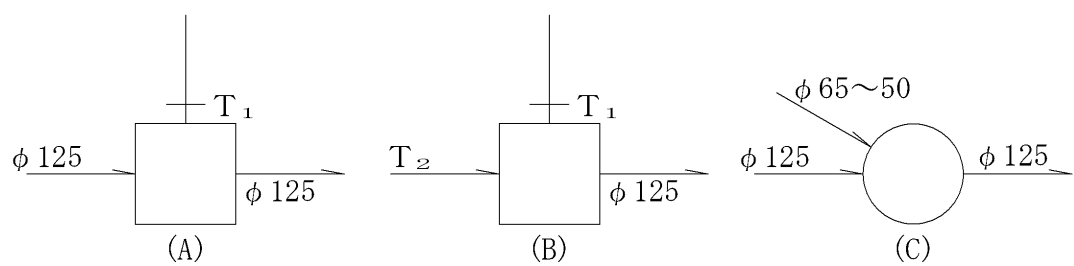


④

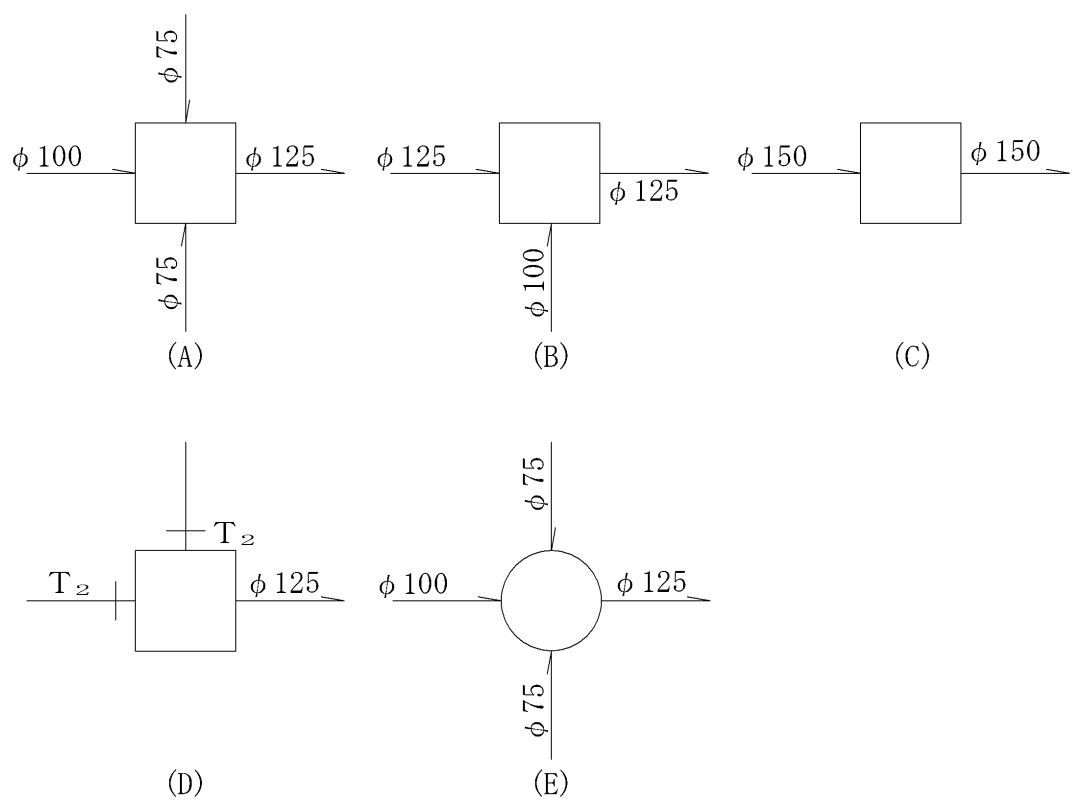


(2) 排水管の大きさ及び接続状態によるますの設定

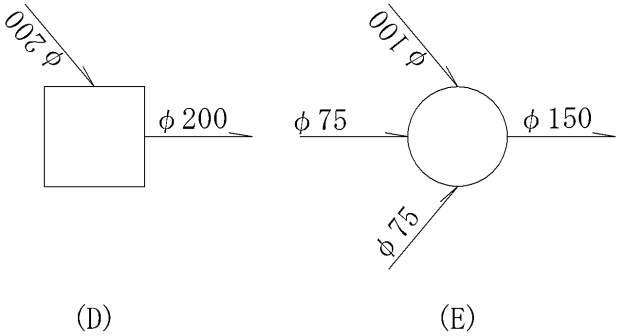
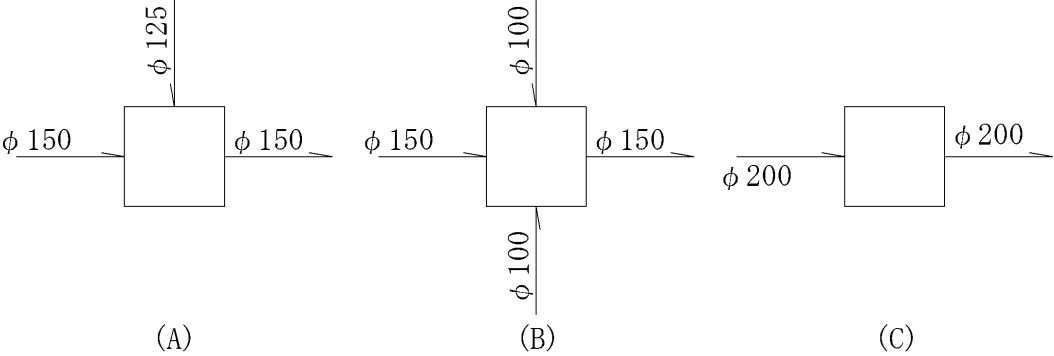
内法 300×300



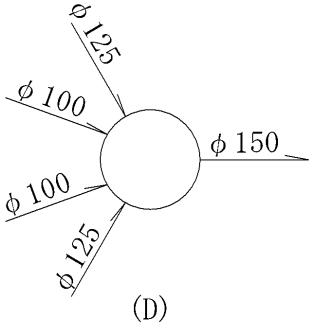
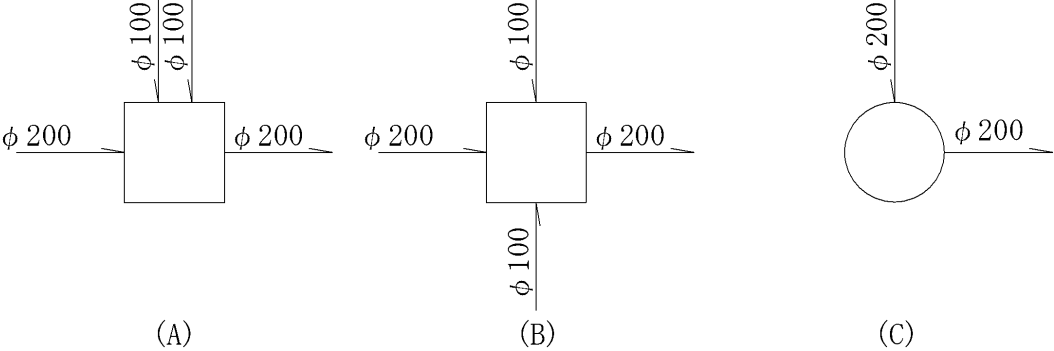
内法 350×350



内法 400×400



内法 450×450



(3) ドロップ装置

ドロップ装置落差

ドロップ装置落差は、ドロップ装置によって調整すべき管底高である。

H = ドロップ装置落差

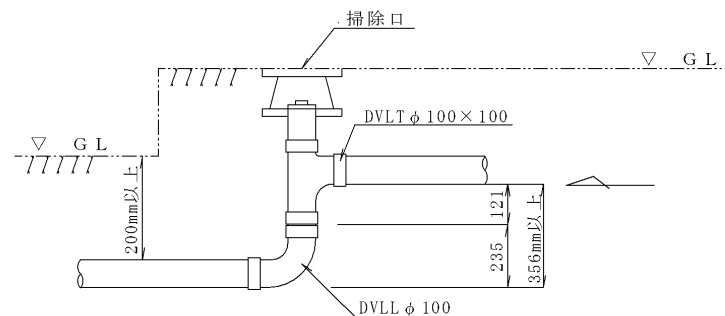
$H1$ = 直前のますから $1.5/100$ こう配で計算したドロップますの流入側管底高

$H2$ = 直後のますから $1.5/100$ こう配で計算したドロップますの流出側管底高
とすると

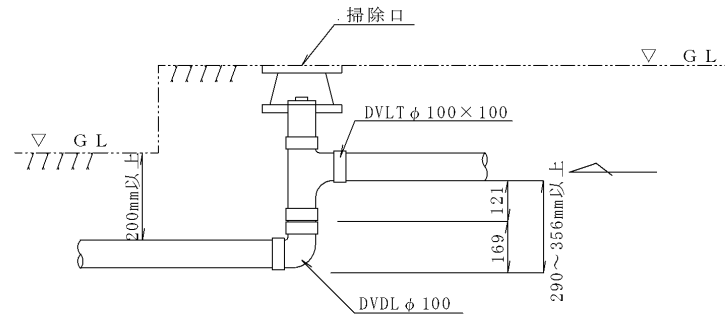
$H = H1 - H2$

ドロップ装置 構造図 (例)

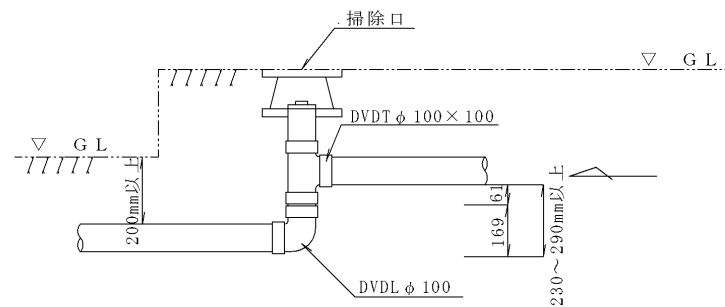
①



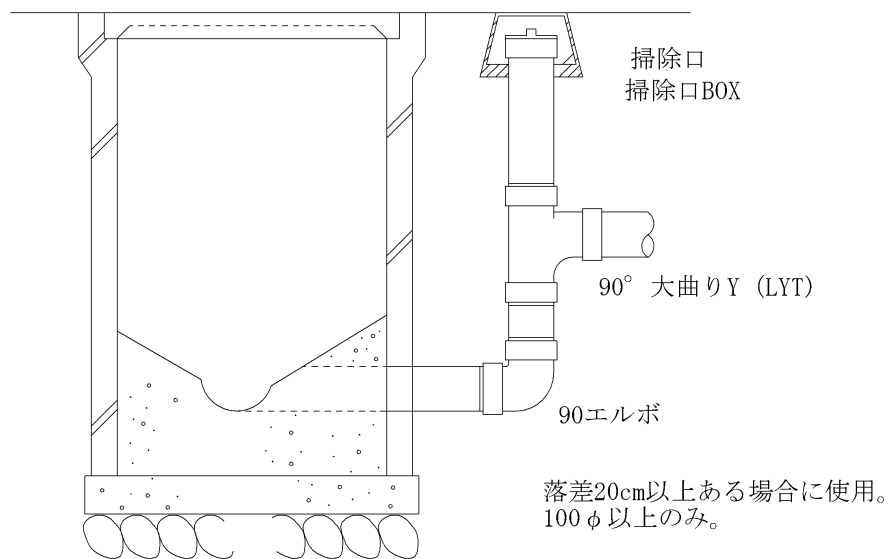
②



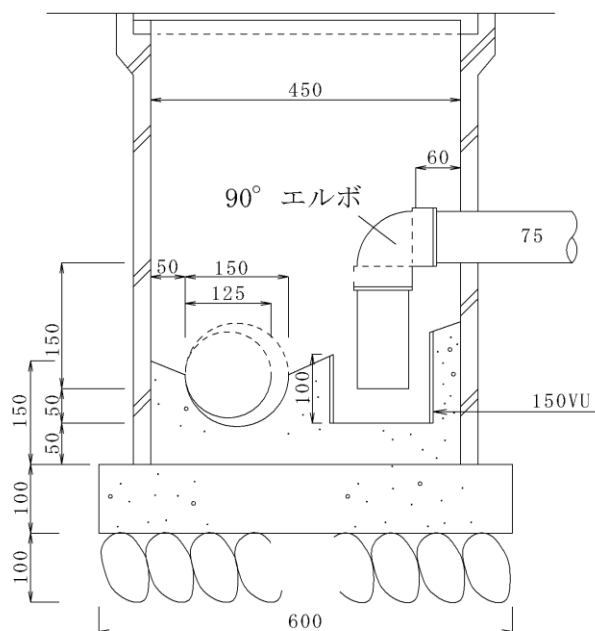
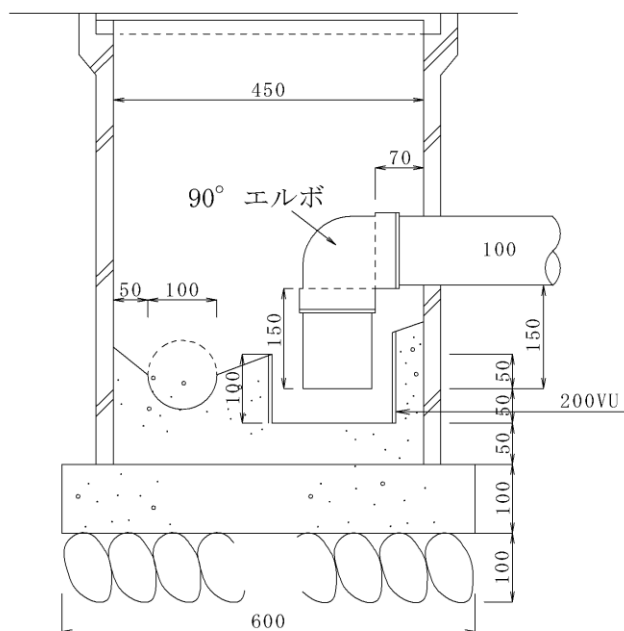
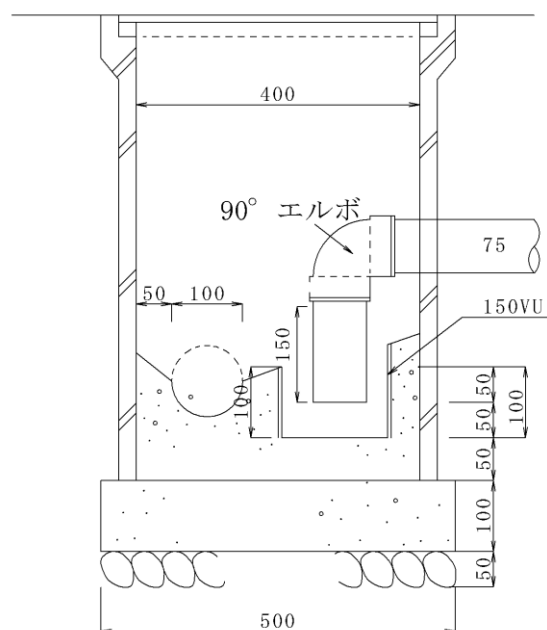
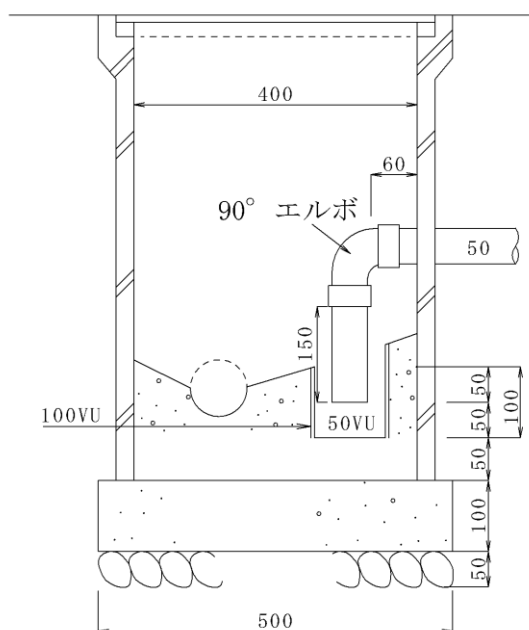
③



ドロップます 構造図 (例)



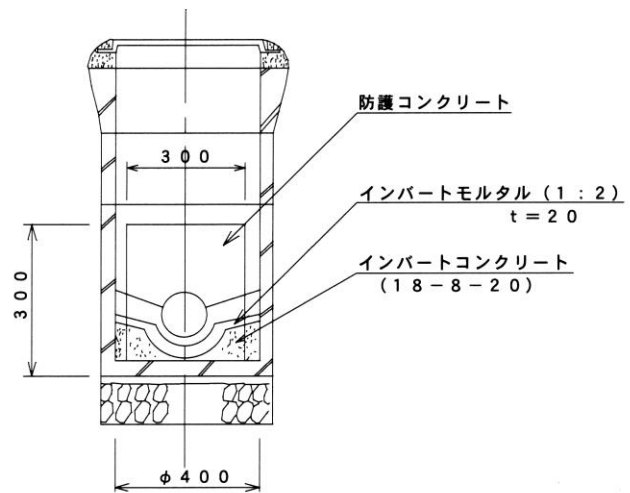
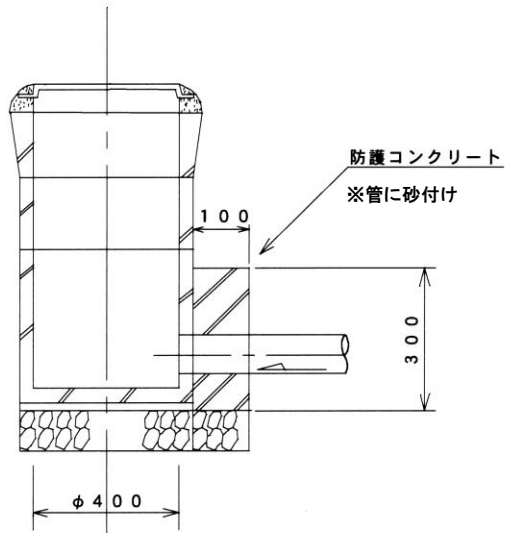
(4) T形トラップます標準構造図



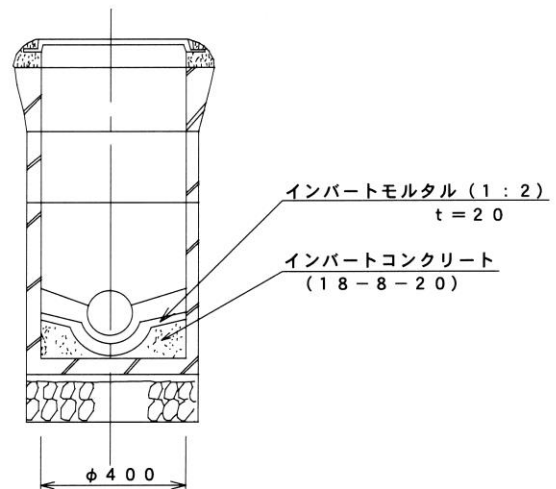
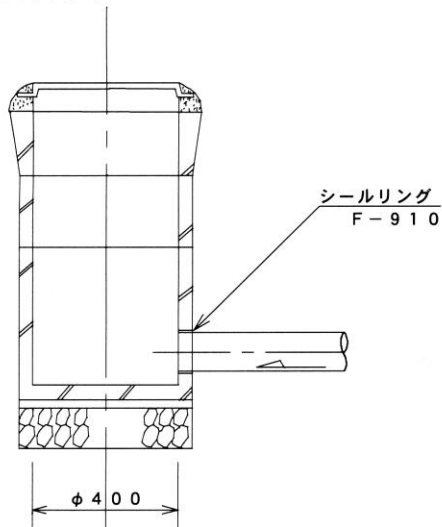
(5) 公共ます（コンクリート製 丙ます）への接続標準構造図

公共ますへの接続

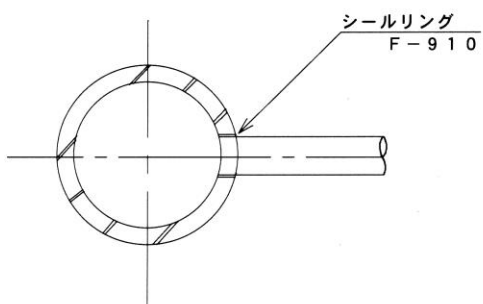
公共ます B TYPE



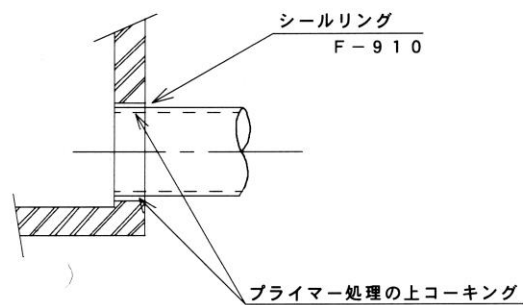
公共ます B-2 TYPE



平面図



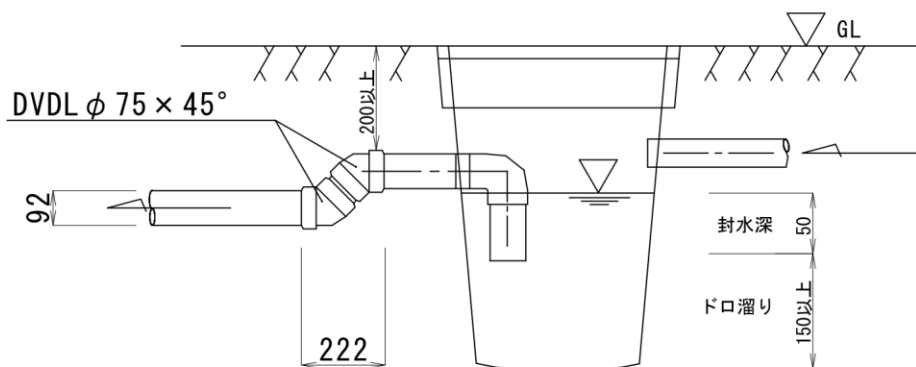
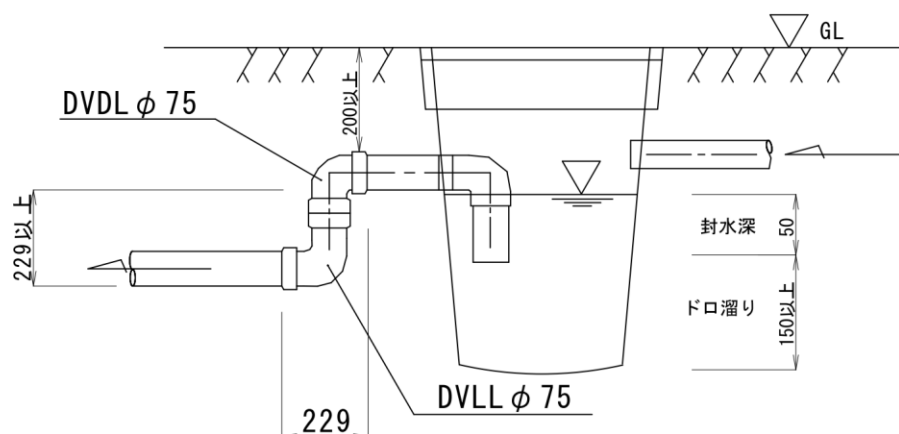
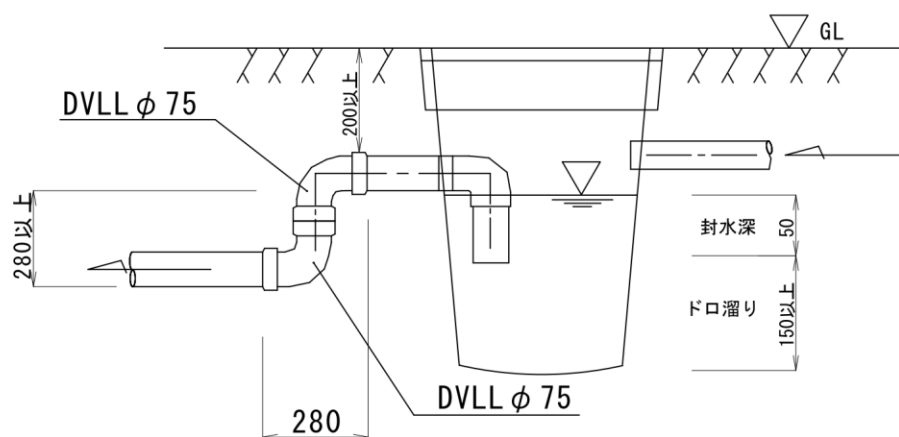
継手（シールリング）詳細図



(6) ドロ溜り付きトラップますドロップ装置の標準構造図

ドロ溜り付トラップ桝ドロップ装置 構造図

注： 流出側配管延長 3 m 未満の場合 配管口径は、 $\phi 75$ mm



ドロ溜り付トラップ柵ドロップ装置 構造図

注： 流出側配管延長 3 m 未満の場合 配管口径は、 $\phi 100$ mm

